

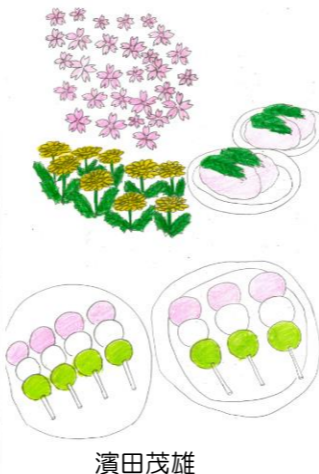
当事者の声

「人とは、……」  
曾根 朗

人とは生きる約束がある  
どうしたって苦しい想いで  
生きていくのか  
けど一人一人違う  
間違い探しのゲーム  
いかげんとか、人より遅いとか  
見栄えが悪いか  
「この先どうすればよいのか  
できなくてもいいんだよ  
一人の人間としてみてほしい  
ただ言葉にするだけでも  
いいじゃないの  
フォローしてくれる人がいるのだ  
し  
ただ明日への幸せ良かったと  
自分に言えたら



太郎のマンガ



濱田茂雄

詩集 さくら / 春 待子 (はる まちこ) から転載  
本名・酒井 田美子 (1960~2003)  
小学校一年生の頃から絵日記を描きはじめ、中学・高校  
と詩に熱中、才能を発揮、惜しくも享年40歳で他界。~詩集の奥付から~

お願い ~賛助会員になってください~

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円  
(会費は、法人の運営費に充当されます。)  
~ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください~  
払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。  
☎ 0794-85-9990 ・ FAX 0794-60-4533

編集後記

私は月1回座骨神経痛の治療で鍼灸院に通っています。そこでは、痛みだけでなく心の落ち込みなど、今現在私の感じていることに対してツボを選んでくれるなど、その時々のおオーダーメイドです。  
ふと、私たち事業所でたてる個別支援計画も、一人一人の目標やその時々の様子に合わせ相談しながら組み立てていきたいと、少し鍼灸治療とシンクロして思いました。今月は美容鍼をお願いしてみようと、とうとう最初の目的も忘れかけている今日この頃です。(北上)

そよかぜねっと通信

就労継続支援B型事業所  
やすらぎ工房

〒673-0521 三木市志染町青山1丁目26番地  
☎ 0794(85)9990 FAX 0794(60)4533  
mail: yasuragi-koubou@maia.eonet.ne.jp  
URL: http://yasuragikoubou.main.jp/

人としての感受性を！ ----- グレタの勇気から

理事長 伊東久雄



グレタの問い~迫る気候危機

スウェーデンの16歳の少女グレタ・トゥーンベリさんが気候変動の危機が迫っているのに誰も行動を起こさないことに「我慢ができなくなり」議会前に一人で「学校ストライキ」を始めた。2019.9.23国連気候サミットで彼女が演説の三日前に世界160か国以上で400万人以上がデモに参加。彼女は語る「まさに今

私たちは一線を引いた。世界は目覚めつつある-----」演説で4回登場した言葉「How dare you」「よくもそんなことが言える」はネットで拡散した(「朝日新聞」2019.9.25)。

科学者によると、地球温暖化で100万種の生物が絶滅の危機にさらされ、あと10年のうちに有効な対策を実施しない限り、灼熱地球へ気候変動の悪循環に陥り、歯止めが利かなくなるという驚くべき警告がある(46億年の地球史で5回の生物大絶滅、いま人類の環境破壊で6番目の最中!)。グレタは11歳の時授業で環境問題の映画を見てショック、以後アスペルガー症候群などの精神疾患を患い気候変動を独学で学んだ(「グレタ たった一人のストライキ」<グレタの母>マレーナ等/海と月社より)。この書を読むと、早熟で感じやすい少女と動かない政治、大人たちへの怒りが満ちている。

「私が伝えたいことは、私たちはあなた方を見ているということです。そもそも、すべてが間違っているのです。私はここにいて、学校に通っているべきではありません。私は海の反対側で、学校に通っているべきです。  
あなた方は、私たち若者に希望を見いださうと集まっています。よく、そんなことが言えますね。あなた方は、その空虚なことばで私の子ども時代の夢を奪いました。-----」

「ゴキブリにも希望をあたえて」小学生の投書

「僕が通う塾で、飛んで素早く動く黒光りしているゴキブリがいた。このゴキブリは数秒後につぶされた。---なぜゴキブリは嫌われ、気持ち悪がられ、つぶされてしまうのだろうか。ゴキブリも頑張って生きている。だから生かしてあげようというのが、僕の主張だ。---ゴキブリは害が比較的少ない、衛生面の問題もあるが他の動物も言えること、人間もその一つ---逃げられるという希望をあたえてあげてほしい(12歳村田理尚「朝日新聞」19.10.12)生きている命への感受性に感動した。

精神疾患に悩む当事者を看守る家族が、常に聞かされる言葉が、本人のやる気を待つべし、たとえば、「先回りして困難を取り除き、すべてを家族が代行していながら」自分で何もできない」と嘆くのは足を縛って背中を押すのと同じ(「親亡きあとの住まいと暮らし」尼崎市北部障害者支援機構藤塚菜穂子氏の講演より)ということです。本人の自主性への想像力が問われている。しかし、当たり前のように呼吸している、この大気が次第に汚されていく一方、少し考えれば、どんな神経かと疑う、言葉の暴力が世にはびこりつつあるからなおさら、日常の私たちの言葉、他者、世の流れへの人としての当たり前の感受性を磨きたい。生きている限り、どんな艱難があっても、詩・文学・音楽・美術など古今東西の表現に少しでも多くふれていけたら！  
(2020.2.4記)

学んだこと

職員 森本めぐみ

今回の記念大会は、何より著名な三人の先生方のトークライブを楽しみに参加した。三方それぞれに違う個性があるが、三人共が、三人の出会いを貴重なものと認識して、出会いを通してそれぞれに自分の活動領域を膨らませていて、精神病患者の家族の想いを発信していることが素晴らしいと感じた。

糸川先生、夏菺先生が研究者・医者としての専門的な意見を述べる中で、中村先生がう

き換えをしてくれているな、と感じた。また、夏菺先生ご自身は当事者としての側面もあり、率直に服薬中であることや投薬の必要性を実感を持って語ってくれたことは、投薬治療を知識として学ぶよりも有益なものとなった。

更に、夏菺先生が話されていた、家族会は地域の精神科病院の医院長と密接に繋がることで相互協力の関係性が得られるという意見は、今後の家族会存続への道筋として有効

本人と出会い

職員 犬飼恵美奈

今までは、本人が「子」である人と接する事が多かったが、今回当事者が「親」である子の立場の人の話を聞くことが出来て貴重な体験だった。当事者と深く関わりがある人への支援体制をしっかり整えていくべきだと感じる。また、何年かかっても、やはり出会う人によって、状況が劇的に変わるといふ事例も目の前で聞き、自分も当事者を取り巻く支援者の一人として、その人の状況が良い方向に変化するような支援をしたいと思うし、福祉サービスや法律の知識をより一層身につけないといけない、と感じた。

統合失調症の多面的な理解

職員 長ひろか

科学者・糸川先生、精神科医・夏菺先生、当事者家族であり漫画家・中村先生と、それぞれ違った立場のお三方によるトークライブは、とても印象的なもので、互いの立場を認め合う姿勢は、とても感銘を受ける。特に「精神科医療は、モノ（脳）とコト（心）の

両面が深く影響し合っている」、「薬の無駄飲みを止める為にも数学的な解明が必要である」という内容。”多面的な理解”という考えを意識して、今後の支援に活かしていきたい。

- 男性20名が利用し、1日平均では14.7人の利用となった。(4月例)
女性4名が利用し、1日平均2.5人の利用となった。

Table with columns for month, R1, increase/decrease, male, and female. Total 18.0 users, R1 16.4, increase -1.6.

Book cover for 'わが家の母はビョーキです' (My mother is crazy). Series 150,000 copies sold.



検索 から購入へ進めます。

心の病の不思議

精神の病気は、過労やストレス等々に起因した脳の誤作動・病気だと言われています。先日、兵家連創立50周年記念大会の講演の中で、精神科医の糸川先生が言われた言葉でとても印象的なものがあります。「心の状態で脳の状態を見ることはできるのではないかと考えた。しかし、そうは言えない。脳の中に尊厳というたんぱく質も自尊心というものも生まれません。脳の状態だけでは調べられない。脳の状態は原因ではなく結果。」と言われていました。人の体は様々な物質で出来ていますが、感情・心というのはどこに起因するのだろうか??人体の物質では計り知ることのできない精神の病の難しさ、奥深さを感じるとともに、薬の治療だけでなく関わりが

障がい者作品展示会

- 11/30(土)~12/6(金)
市役所みつきいホール

毎年12月3日の「国際障害者デー」から12月9日の「障害者の日」までの7日間が、障害者週間になっており、市役所みつきいホールで毎年「障がい者作品展示会」が開催されています。今年も、11/30(土)~12/6(金)まで、市内の事業所や団体の作品がずらりと並びます。

やすらぎ工房からは、通信やニュースでおなじみの太郎さん、茂雄さんをはじめ、総勢6名の利用者が作品を展示します。併せて自主製品の展示販売も行います。ご覧いただくと



昨年の展示風景

就労継続支援B型事業・第10年度

Infographic for 'やすらぎ工房' B-type employment support. Includes statistics on users (250 days open, 4,505 users), wages (9,316 yen/month), and financial breakdown (revenue 395 million, expenses 324 million).

縦書きのナビゲーションテキスト: NPO法人そよかぜねっと | NPO法人そよかぜねっと | 特定非営利活動法人そよかぜねっと | NPO法人そよかぜねっと | ホームページは「やすらぎ工房三木」が楽です。